

釧路市立博物館が所蔵するアイヌの丸木舟 2 点の樹種同定

千原 鴻志¹ 佐野 雄三²

1. 緒言

釧路市立博物館においては、アイヌの木製民具が多数収蔵・展示されている。これらの木質文化財の樹種を、科学的に信頼できる手法を用いて同定することは、アイヌ文化についてのより深い理解につながるだけでなく、正確な展示を作成する上でも重要である。

自然科学的手法により木材の樹種を識別する方法としては、顕微鏡による木材（二次木部）の解剖学的特徴の観察が一般的である。遺跡から出土する木製品や炭化材に関しては、この方法による樹種識別の事例が全国的に蓄積されている（伊東と山田（編）2012）。しかしながら、伝世するアイヌ文化の木製民具の樹種識別が行われた事例は非常に少ない。

現存するアイヌの丸木舟については、すでに由良（1995）と難波（1991）が別々に集成をおこなっており、資料ごとにその樹種名を記載している。しかし、両文献とも樹種同定の方法や種同定の根拠については記されていない。本田（1998）は、これらの文献に記載されている樹種を無批判に受け入れることはできないとしている。また加藤（2002）は北海道大学植物園が所蔵するアイヌの丸木舟 7 点を対象に、走査電子顕微鏡観察による樹種識別を行い、これまで由良（1995）と難波（1991）によって樹種が記載された 4 点のうち 3 点を改正し、文献類に記載されている現存丸木舟の樹種名の中で樹種を同定した方法及びその根拠が明らかではないものについては再調査をする必要性を指摘した。

釧路市立博物館が所蔵・展示している 2 点の丸木舟については、由良（1995）と難波（1991）で、異なる樹種が記載されている（表 1 参照）。また、これらの丸木舟を対象とした解剖学的特徴の顕微鏡観察に基づく樹種識別はこれまで行われてこなかった。そこで本稿では、アイヌの丸木舟 2 点を対象に行った光学顕微鏡観察による樹種識別の結果を報告する。

2. 試料と方法

観察に用いた試料は、釧路市立博物館に展示されている 2 点の丸木舟（資料番号 92001 および 92002）の移設作業の

際に採取された後、博物館から北海道大学に送付された小片である。

試料は水中に浸漬し、減圧脱気してから約一日吸水させた。カミソリの刃で試料の木口面、柁目面、板目面から徒手切片を作製した。徒手切片はスライドガラスに載せ、水溶性の封入剤（Aquatex, Merck）を用いてカバーガラスで封入し、60℃のホットプレート上で乾燥・硬化させ、永久プレパラートとした。光学顕微鏡（Axioskop2 plus, ZEISS）により各断面の解剖学的特徴を観察・写真撮影し、ウェブサイト上の識別データベース（森林総合研究所「日本産木材識別データベース」）を参照し、同定を行った。なお、分類群名・種名は米倉と梶田（2003～）の標準名に準拠した。

3. 結果と考察

樹種識別の結果を表 1 にまとめた。以下、試料ごとに、同定された樹種とその識別根拠となった解剖学的特徴を記す。

(1) 資料番号 92001（短い方の丸木舟）：ハリギリ *Kalopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz. (写真 1-1)

環孔材。孔圈道管は一列で、孔圈外の道管は集合し、接線状～波状に配列。道管の穿孔板は単穿孔板で、道管相互壁孔は交互状。放射組織は 6 列で、縁辺部のみ直立細胞または方形細胞、それ以外は平伏細胞。以上の特徴からハリギリ属と同定し、現生樹木の分布からハリギリとした。

(2) 資料番号 92002（長い方の丸木舟）：カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult. (写真 1-2)

散孔材。木口面における道管密度は高く、1 mm 当たり 100 個以上。道管の穿孔板は階段穿孔板で、道管相互壁孔は階段状。放射組織は 1～3 列で、縁辺部 2～4 列（まれに 6 列）のみ直立細胞または方形細胞、それ以外は平伏細胞。以上の特徴からカツラ属と同定し、現生樹木の分布からカツラとした。

表 1 に示した通り、今回の分析結果は 2 試料とも由良（1995）の記述と一致し、難波（1991）の記述とは異なった。今回の結果は、加藤（2002）が指摘した解剖学的特徴に基づく樹種識別の必要性を裏づけている。

表 1. 釧路市立博物館所蔵の丸木舟の樹種識別結果および既往文献との比較

試料名	本研究における 樹種識別の結果	既往の文献に記載されている樹種	
		難波（1991）	由良（1995）
92001（短い方の丸木舟）	ハリギリ	カツラ	セン ^{注1}
92002（長い方の丸木舟）	カツラ	トドマツ	カツラ

注 1：「セン」はハリギリの別称である。

1 山梨県立富士山世界遺産センター

2 北海道大学大学院農学研究科

引用文献

伊東隆夫, 山田昌久(編). 2012. 木の考古学: 出土木製品
用材データベース. 海青社, 大津.

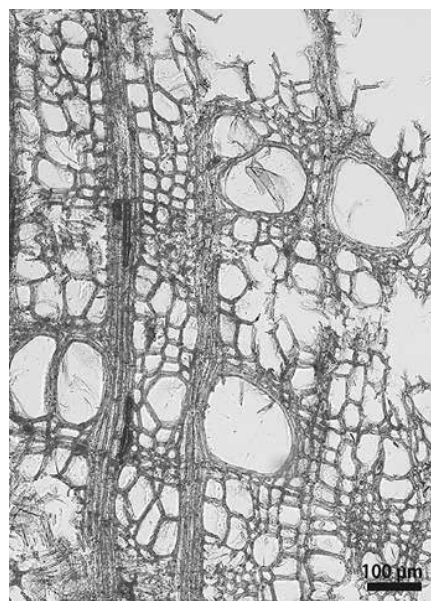
加藤 克. 2002. 北大植物園所蔵丸木舟の樹種同定: 走査電
子顕微鏡を用いて. 北大植物園研究紀要, 2: 25-36.

森林総合研究所. 日本産木材識別データベース, [http://
db.ffpri.affrc.go.jp/WoodDB/IDBK/home.php](http://db.ffpri.affrc.go.jp/WoodDB/IDBK/home.php), 2022年 4
月29日閲覧

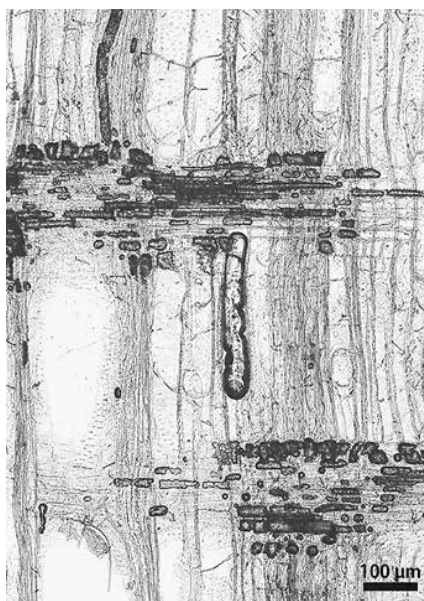
難波琢雄. 1991. アイヌ丸木舟の地方型. アイヌ文化, 16:
22-33.

本田優子. 1998. ハリギリの丸木舟. 北海道立アイヌ民族文
化研究センター研究紀要, 4: 15-27.

由良 勇. 1995. 北海道の丸木舟. 由良勇(自費出版), 旭川.
米倉浩司・梶田忠. 2003-. BG Plants 和名-学名インデッ
クス (YList), <http://ylist.info>, 2022年 4月29日閲覧



木口面

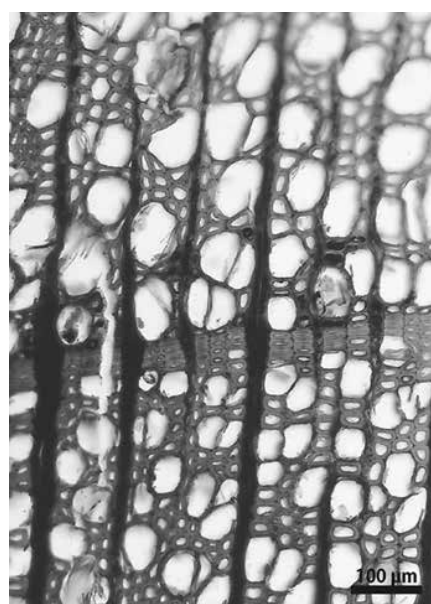


柁目面

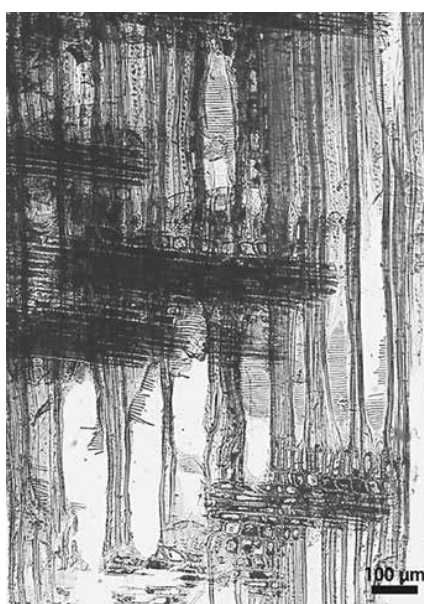


板目面

写真1-1 資料番号92001 (短い方の丸木舟): ハリギリ



木口面



柁目面



板目面

写真1-2 資料番号92002 (長い方の丸木舟): カツラ

写真1. 釧路市立博物館が所蔵するアイヌの丸木舟の光学顕微鏡写真